

海津地域における大豆生産 ～ 平原地域営農組合の取組～

平原地域営農組合
代表 大倉久徳

(平成19年度全国豆類経営改善共励会資料より)

経営概要 (平成19年産)

品種名	フクユタカ		作付面積	47.4ha	単 収	250kg/10a
労働時間	2.63 hr/10a	費用合計	6,978 円/60kg		上位等級比率	1等 38% 2等 49%
構成農家戸数	85戸	ハレタ-数	6人	活動対象作物	水稲、小麦、大豆	

経営農地の状況経営概要

(単位：ha)

	合 計	田	普通畑	樹園地	牧草地	その他
農地面積	1 2 3 . 4	1 2 3 . 4				
自作地						
借 地	1 2 3 . 4	1 2 3 . 4				

農作物の作付及び規模拡大の状況 (大豆、水稲、麦類面積) (単位：ha)

区 分	大 豆			水 稻			麦 類		
	17年	18年	19年	17年	18年	19年	17年	18年	19年
自 作 地									0
借 地	52.8	48.6	47.4	30.0	30.0	73.5	52.8	48.6	47.4
全作業受託	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	52.8	48.6	47.4	30.0	30.0	73.5	52.8	48.6	47.4
水 田	52.8	48.6	47.4	30.0	30.0	73.5	52.8	48.6	47.4
転作加 外							52.8	48.6	47.4
部分作業受託				40.0	40.0	0			

これ以外に、平成19年は2.5haの黒豆を栽培した。

大豆収穫量

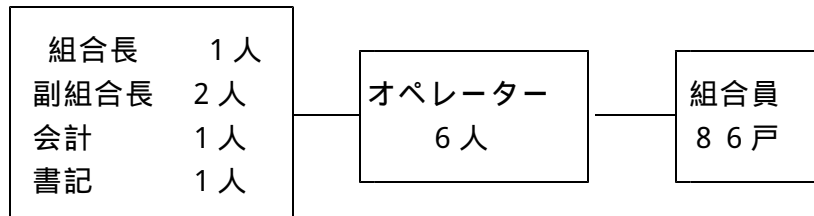
区 分	17年産		18年産		19年産	
	kg	%	kg	%	kg	%
1 等	7,980	7%	21,450	22%	45,270	38%
2 等	24,000	20%	25,110	26%	57,555	49%
3 等	38,274	32%	35,550	37%	8,493	7%
特定加工用	30,120	25%	930	1%		
種子大豆合格						
そ の 他	18,255	15%	14,325	15%	7,260	6%
計 (kg)	118,629	100%	97,365	100%	118,578	100%
単収 (kg/10a)	224		200		250	
県平均単収 (kg/10a)	146		150		154	

注：比率の和は四捨五入のため100にならない場合がある

集団活動の内容

- ・ 平原地域営農組合は、昭和55年より開始された再ほ場整備に伴い、地域で今後の営農方針を協議していく中で、集落単位に営農組合を組織して大規模営農を行う構想に基づき、昭和63年に設立。

< 集団の組織体制 >



- ・ 昭和55年から始まった国営かんがい排水事業、県営ほ場整備事業等により、1～2ha区画の大区画ほ場の整備、パイプライン方式の導入、暗渠排水の設置が進み、水稲単作地帯から小麦、大豆などの土地利用型作物の栽培に取り組める基盤が整備された。
- ・ 設立当初は小麦の集団転作を中心に活動してきたが、その後大豆の作付けも行うようになり、集落単位で水稲、小麦、大豆による2年3作体系のブロックローテーションによる栽培を行ってきた。
- ・ 平成19年からの水田経営所得安定対策（品目横断的経営安定対策）への対応のため、地域で地道に話し合いを行い、農地の集積を進めたことにより、地区内の農地の大半を集積することができた。

技術改善への取り組み

(1)多収化への取り組み

排水対策の徹底

- ・平成15年から18年にかけて、営農組合が主導して暗渠排水工事を実施し、抜本的な排水条件の改善を行った。これにより、排水条件が飛躍的に改善し、小麦・大豆の単収、品質向上につながった。
- ・さらに暗渠を生かすためにサブソイラーによる心土破碎、トレンチャーによる明渠を設置。

基本技術の徹底

- ・水稲 - 小麦 - 大豆のブロックテーションを確立し、集団的なほ場利用と連作障害の回避につなげている。
- ・種子更新は毎年100%行っている。
- ・土壌改良は、麦作前に行い、土壌診断に基づき苦土石灰の投入量を決定し、ほ場ごとの土作りを実施している。
- ・播種時においては、発芽・苗立ちの確保と適切な栽植密度の確保のため、適正な土壌水分のほ場から播種し、播種精度の向上と雑草の発生防止に努めている。
- ・中耕・培土は適期に丁寧な作業を行い、排水性の向上、肥料吸収の促進、倒伏の防止、雑草害の回避につなげている。

病虫害防除の徹底

- ・ハスモンヨトウ対策として、フェロモントラップを全ほ場に1haに2個の割合で設置し、発生状況を的確に把握することにより、適期防除につなげている。また、カメムシの防除も含めて、計2回の病虫害防除を徹底している。

(2)高品質大豆生産への取り組み

- ・主要病害である紫斑病は、種子消毒及び適期防除を徹底することで回避している。また、汚損粒対策として栽植密度の適正管理、適期播種により着莢位置を確保し、収穫作業は夜露が十分に乾いてから、土を噛まないよう丁寧に行っている。
- ・収穫機械については、汎用コンバインのほか、大豆専用コンバインにより、丁寧な収穫作業を実施し、ロスや汚粒の発生が少ない確実な収穫に努めている。



大豆専用コンバイン

(3)省力化への取り組み

- ・ほ場整備事業の実施により、1～2haの大区画に整備された水田を団地化して使用し、トラクター、サブソイラー、中耕ロータリー、乗用型管理機、麦大豆汎用コンバイン等の大型機械によって作業を行うことにより、効率的な作業を実施。



クローラトラクター

- ・ 耕起・播種・施肥・除草剤散布については、160馬力の大型クローラトラクターを使って一貫作業を高速で行い、1台の播種機で全面積の播種を行っており、オペレータ作業、補助作業の大幅な省力化につなげている。
- ・ クローラトラクターで播種作業を行うことによって、降雨による圃場のぬかるみの影響を軽減でき、播種期間の短縮にもつながっている。
- ・ 乾燥調整については、JAのビーンセンターを利用することにより省力化を図っている。

(4)新技術の導入

- ・ 大豆の作付け跡のほ場については、明渠や培土によりほ場の高低ができていたため、レーザーレベラーを使って均平にし、水稻栽培の水管理に支障が出ないようにしている。

< 平原地域営農組合の時期別主要作業 >

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
水稻	冬耕起	冬耕起	耕起	代かき←	→ 田植		← 追肥	→	← 収穫	→		
小麦			追肥	防除		収穫					播種	
大豆							播種	中耕培土	防除			← 収穫

実需者へのニーズに対応した栽培

- ・ 大豆生産は常に実需者ニーズを意識し、粒揃いが良く汚損粒や病虫害被害がない高品質なものを生産するよう心がけている。
- ・ 平成18年からは、海津市全体で「ぎふクリーン農業」への登録を行い、化学合成農薬や化学肥料を30%低減した栽培を行っている。

今後の作付計画、経営・栽培技術上の改善点

- ・ 大豆については、引き続き収量及び品質の安定化を図り、より有利な販売を行うことを目指す。
- ・ 今後は、5年以内に法人化を行う計画であることをふまえて経営をより安定したものとするため、更なる収益性の向上に努めていくとともに、周囲の営農組合との合併等も模索しながら、経営規模拡大を図っていく。

地域農業における活動状況，経歴，表彰歴

平成19年度 土地改良事業地区営農推進優良事例表彰 全土連会長賞
平成19年度 岐阜県豆类経営改善共励会 岐阜県知事賞
平成19年度 全国豆类経営改善共励会 全国農業協同組合連合会長賞
平成20年度 全国麦作共励会 農林水産大臣賞受賞



平原地域営農組合のメンバー（役員）